『居住ワークショップ第１弾』2016.6.2開催

（会場：パレットとっとり市民交流ホール）

◆居住施策アイデアまとめ◆

【第１グループ】

　1.街なかの課題

　　・街なか居住でも車は必要だが、駐車場の確保は難しい

　　・居住したくても物件が少なく借家にしても何にしてもコストが郊外より割高

　　・安定的に働ける場所が無い

　　・娯楽が少ない

　　・ゆっくりと過ごせる環境が意外とない

　2.街なか（鳥取）の良いところ

　　・子ども連れで遊べる公園が多い

　　・スーパーで売っている食材でもおいしい

　　・マンションなどに住めば都市型のコミュニティの中で暮らせる

　　　（べったりとした付き合いを必要としない）

　3.考えなければならないこと

　　・将来の生活スタイルをイメージしてまちづくりを考える必要がある

　　・鳥取らしさを創っていく必要がある

　　・既存の地域コミュニティやあらゆるコミュニティを繋げる必要がある

　4.アイデア

　　①わかりやすい情報発信

　　　・生活者レベルのミクロな暮らしの情報発信を行う

　　　　（東京で移住相談を相談員にしたが、生活に関する情報は得られなかった。スーパーのチラシなどが見れるだけでも生活が想像できる）

　　　・発信源がありすぎるので一元化して見つけやすくする

　　　・静かに安心して暮らせるまちであることをもっとアピール

　　　・モデル生活者の情報発信などが良い　※居住モニターが同一施策

　　②シェアハウス（ルームシェア）

　　　・空き家をシェアハウスとして普及する

　　　　（学生に対しては賃料負担軽減となり、比較的空き家解消に有効）

　　③地域コミュニティーづくり

　　　・居住モニターなどに居住希望者と地域の橋渡し役になってもらう

　　　　（知らないコミュニティーへ入っていく際の不安解消、事前相談）

　　　・地域コミュニティーづくりの機会の提供を行う

　　　　（鳥取の地域コミュニティーを広げていく定期的な機会をつくり不安解消）

【第２グループ】

　1.街なかの課題

　　・後継者がおらず閉店しているお店が多い

　　・中心市街地内の高齢化が進んでおり、高齢者向けの店舗は集客している

　　・商業地であり居住するには無理がある建物ばかり

　　・働く場所がない

　2.街なかの良いところ

　　・病院などが近くにあり、車が無くても生活できる

　　・繁華街もあり、学生にとってはバイト先と遊び場が集中している

　　・意外と夜も静か

　　・夜中に帰ってきても怖くない

　3.市の施策と現状に関して

　　・各事業の実績が件数だけ

→目標と比べて分析が必要。PDCAサイクルをしっかりやるべき

　　・居住促進について（増やしたいと言うが）

　　　　→どんな人を増やしたいのか明確でない。まずは、雇用の場や新規開業件数を増やし“人の流れを増やす”べきで新規開業する人の支援策も必要。結果的に、商業地域としての復権を目指すべきではないか

　　・現状施策

　　　　→ファミリー層を入れたいが、現状は高齢者向けのアプローチとなっている

　　・都市計画について

　　　　→広い視点からまちづくりを考える必要がある。都市計画では各地域に適用される容積率や用途を定めている。居住エリアと商業エリアを明確にし、エリアの差別化を図る必要がある。

　4.アイデア

　　①歩ける商業地域としての復権を図る

　　　・人の流れを増やす取り組み　・来街層の絞り込みとマッチングした取り組み

　　②エリアの差別化を図る

　　　・ウリをつくるため車両規制エリアを設け歩行者空間の充実を図る

　　③居住などに関する情報の一元化

　　　・情報を集約しわかりやすい発信を行う

★ワークショップ総括（アイデア）★

　その１.　鳥取の生活（居住）にまつわる情報をまとめてわかりやすく発信する

　その２.　商業エリア復権のため大胆な商業・居住エリアの差別化政策を検討する

　その３.　地域内で不特定多数が関わり繋がれるコミュニティー形成の場を創出する